

課題構想・概要

課題名 「調和型文明への東アジアの基盤的政策研究」
代表者名（所属機関名） 「有馬朗人（財団法人未来工学研究所）」
中核機関名 「財団法人未来工学研究所」

課題の目標・概要

1. 目的

現代科学技術の根底の一元的価値観による西洋文明（思想）は既成秩序のバランスを損ない世界の混迷を与えている。我が国は西洋文明と異なる文化的基盤から近代化を成し遂げ、多元的な文明のとりいれを体現してきた経験からも近隣の東アジア諸国と多元的調和を尊ぶ新たなパラダイム構築のための研究を行うものである。

2. 内容

調和型文明形成に資する基盤的政策として健康医療分野における統合医療化、情報通信分野におけるデジタル技術とネットワーク技術に依拠する多元的な文化振興、エネルギー消費型経済と環境の矛盾を解きほぐすシステムなど、東アジアの特質を踏まえ検討を行い、同時に日本、中国、韓国などの東アジアの研究者と基盤的政策について共同検討を加える。

3. アジア諸国とのパートナーシップの観点

基盤政策に関する方向性と実施課題の共通理解と認識の共有を基に、東アジアの政策機関と共同研究を進め、本研究と協力して東アジアの政治的指導者層・政府政策研究機関との調整を行い具体的に政策課題として検討を進める事が肝要である。

4. 複数機関間連携の必要性

調和型文明形成への東アジアの基盤的政策検討のために科学技術哲学、医学生物学、エネルギー論、地球環境論、文明論、経済学、国際政治学、地域研究等々の科学技術全般への横断的な検討が必要であるために関係研究機関の連携が必要。

5. 推進委員会を構成する機関・組織等

国際日本文化研究センター、青山学院大学国際政治経済学部、京都大学大学院経済学研究科、多摩大学社会情報学研究所、拓殖大学国際開発学部国際開発研究所、日本統合医療学会、日立製作所試作開発センタ、（防衛研究所）未来工学研究所

諸外国の現状等

1. 現状

イラク戦争等文明間の相違による亀裂が国際社会を覆い国際経済的にも均衡を欠くグローバルイズムの形態に関し矛盾が噴出しているが世界の指導的論調は是非を論じるのみで未だ対案を提起するには至っていない。

2. 我が国の水準

諸外国でも（米国やフランスなど）多くの論者の研究があり、我が国でも青木保教授などの優れた研究も行われ諸外国と比較して活発である。文明の構造の基盤をなす科学哲学と、多元的な文明の調和を自ら立脚する地点から考察し、共通の文明的な基盤を持つ近隣諸国とともに考察することができれば諸外国の水準を遥かに凌駕することが期待できる。

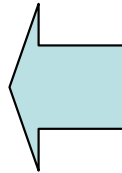
課題の実施により期待される効果

イラク戦争を始め文明間の相違による亀裂が緊張を高める国際安全保障環境と、均衡を欠くグローバルイズムによる不安定な国際経済、国際的に管理の行き届かない新たな疾病等々から起因する世界の不安定化に対して、本研究の成果にもとづく東アジアからの国際社会への提起は国際的なコンセンサス形成・紛争の回避などへ向けて世界の安定化に甚大な影響を与え、これからの世界の調和に依拠する発展へ向けて貢献することが期待される。

課題「調和型文明への東アジアの基盤的政策研究」の内容

現代科学技術の基盤をなす一元的価値観(思想)はバランスを失い世界の混迷をもたらしている。

西欧と異なる文化基盤から近代化を成し遂げ、多元的文明を取り込んできた我が国の経験は、「多元的調和を尊ぶ新たなパラダイム」
有限な資源を適切に配分し多様性が尊重される穏健な調和型の国際社会を基礎に持つ、構築に有益であり、これからの世界の枠組み「調和型文明形成」に貢献する。



文明間相違に起因する**国際安全保障環境の解明**
均衡を欠くグローバリズムによる**不安定な国際経済・社会の解明**
多様な文化と文明の持つ知的遺産が果たす**潜在的な創造力の探求**
ネットワーク社会で展開できる**多彩な知的活動の探求**(前記知的遺産に基盤)
多元的文明の調和を基調とする**国際的コンセンサス形成・紛争回避**ほか



基盤的政策検討

【分科会】 **創造的研究基盤、健康基盤、学術・芸術・技術融合型文化基盤、IT基盤、経済社会基盤、安全保障基盤**

日本、韓国、中国関係研究機関の参加



日中韓国際シンポジウム

第1年度 敦煌(蘭州)2004年9月上旬
第3年度 ソウル2006年末

調和型文明へ東アジアの基盤的政策研究実施体制

